

まちづくり交付金 事後評価シート
登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区

平成21年12月

神奈川県川崎市

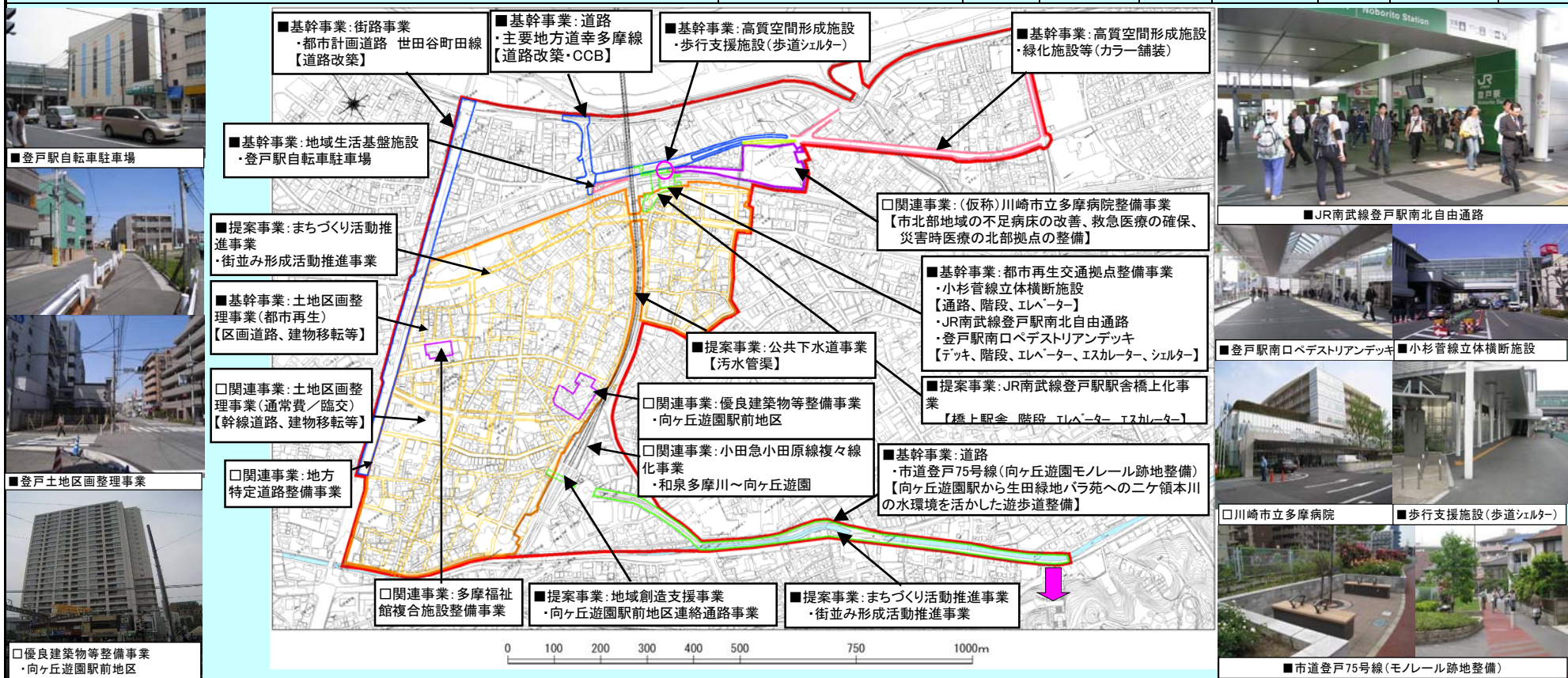
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	神奈川県		市町村名	川崎市		地区名	登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区			面積	75 ha	
交付期間	平成17～21年度		事後評価実施時期	平成21年度		交付対象事業費	9,147 百万円	国費率	0.4			
1)事業の実施状況	事業名											
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【道路】主要地方道幸多摩線、市道小杉管線、川崎市立多摩病院前歩道、市道登戸75号線(モルル跡地)、【地域生活基盤施設】登戸駅自転車駐車場、【高質空間形成施設】歩行支援施設(歩道シルター)、【都市再生交通拠点整備事業】JR南武線登戸駅南北自由通路、登戸駅南口ペDESTリアンデッキ、小杉管線立体横断施設、【土地区画整理事業(都市再生)】登戸地区、									
		提案事業	【地域創造支援事業】土地区画整理事業登戸地区(単独費)、駅舎橋上化事業JR南武線登戸駅、【まちづくり活動推進事業】街並み形成活動推進事業									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	【下水道】登戸地区、【地域生活基盤施設】登戸駅北側第3駐輪場、【都市再生交通拠点整備事業】小田急小田原線向ヶ丘遊園駅自由通路			削除/追加の理由			基幹事業から提案事業への変更、施設配置変更、年次計画変更による削除			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
		提案事業	-			-			-			-
新たに追加した事業	基幹事業	【道路】都市計画道路世田谷町田線、【高質空間形成施設】市道小杉管線他2路線			効率的な交通処理のため、回遊性向上のため追加			指標への影響は考えられるが、数値目標は据え置くものとする。				
	提案事業	【地域創造支援事業】下水道登戸地区、連絡通路事業小田急小田原線向ヶ丘遊園駅			基幹事業から提案事業への変更			事業の枠組み変更のみのため、指標への影響はなし。				
交付期間の変更	当初	平成17～21年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-			-		
	変更	-		-			-			-		
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値	目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)		フォローアップ予定時期	
	指標1	都市基盤整備率	%	26	H15	36	H21	46	○	あり なし	登戸土地区画整理事業に対する権利者等の理解と協力が支えられ、円滑な建物移転を果たすことができ、都市基盤整備を進めることができた。	H22年7月
	指標2	放置自転車率	%	36.9	H16	22.0	H21	3.0	○	あり なし	自転車利用についてのマナーが浸透し、また登戸駅自転車駐車場の供用開始により、放置自転車の大幅な減少を果たすことができた。	-
	指標3	踏切歩行者数	人/日	14,791	H13	7,400	H21	11,174	×	あり なし	南北自由通路や市道小杉管線等を整備したことにより、既存踏切の歩行者数を減少できたが、目標とした半減に至らなかった。登戸新町方面の歩行者にとって、踏切横断が小田急線利用や駅西商店街買い物利用に便利であるためと思われる。	-
	指標4	まちづくり協議会等活動数	回	3	H16	30	H21	47	○	あり なし	まちづくり推進協議会の下で、個性ある街づくり部会とそのワークショップ等に住民の積極的な参加を得ることができ、街並みルールづくりへ向け理解を得ることができた。また、関連事業進捗の周知機会ともなったことで気運が高まった。	H22年7月
	指標5	歩行環境満足度	%	0	H16	80	H21	89.5	○	あり なし	登戸駅南北自由通路、南口ペDESTリアンデッキ、小杉管線立体横断施設及びJR登戸駅橋上化によって、乗換え客、駅乗降客、南北横断利用者等の歩行環境の、利便性、安全性、快適性を十分に確保することができた。	-
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値	目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)		フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	踏切歩行者数の割合	%	100	H13	/	/	45	/	/	川崎市立多摩病院開業や登戸駅自転車駐車場開設により、南北自由通路等の歩行者数が格段に増加した。結果的に、南武線南北横断数全体に占める踏切歩行者数の割合が45%まで減少できた。このことにより、安全・便利で快適な南武線南北横断を確保できた。	-
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・JR南武線と小田急線との乗換の利便性が格段に向上し、登戸駅における交通結節機能の強化が図られた。 ・ペDESTリアンデッキや南北自由通路等の整備により雨天時の通行や登戸駅南北の移動が快適になったという声が、アンケート調査の結果からも聞かれた。また、登戸の顔というイメージづくりにも寄与しており、今後のまちづくりの活性化につながるものと期待される。 ・区画整理事業の進展に伴い、地元住民のまちづくりへの参加機運が高まり、よりよい暮らしのためのルールづくりに向けて、住民主体の活動がさらに具体的になってきている。 											
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等							
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた									
	住民参加プロセス	今後街並み形成活動をより推進するため、「顔づくり委員会」を組織するとともに、「顔づくり計画書」の作成に向け提案事業の中で具体的な活動等を行う。	都市再生整備計画に記載し、実施できた		●							
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		●							
持続的なまちづくり体制の構築	福祉拠点施設(多摩福祉館)の建設を促進するとともに、これらを拠点としてボランティア活動の充実・強化を図る。	都市再生整備計画に記載し、実施できた		●								
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		●								
区画整理に関する地区勉強会を定期的に開催する。		都市再生整備計画に記載し、実施できた		●								
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		●								

様式2-2 地区の概要

登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区(神奈川県川崎市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標名	単位	従前値	目標値	評価値	目標値	評価値	
大目標: 個性ある利便性の高い地域生活拠点として相応しい「いきいきとした出会いのあるまち」の創造 目標1: 市街地環境を改善し、誰もがいきいきと暮らせる生活拠点を形成する 目標2: 交通結節機能を高め、駅を中心に様々な人の出会い、触れあいの拠点を形成する	都市基盤整備率	単位: %	26	H15	36	H21	46	H21
	放置自転車率	単位: %	36.9	H16	22	H21	3	H21
	踏切歩行者数の割合	単位: %	100	H13	50	H21	45	H21
	まちづくり協議会等活動数	単位: 回	3	H16	30	H21	47	H21
	歩行環境満足度	単位: %	0	H16	80	H21	89.5	H21



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・密集市街地の解消と防災性の向上が大きな課題であったが、土地区画整理事業による密集市街地解消及び防災性の向上や、登戸駅南北自由通路等の整備による交通結節機能の向上、都市計画道路等駅周辺へのアクセス整備により、生活拠点形成への課題を目標どおりに解決できた。ただし、引き続き、土地区画整理事業の未施行区域の推進が必要である。 ・また、生活拠点にふさわしい商業集積や魅力を有しているとはいえない状況にあったが、個性ある街づくりルールについて、地区住民の参加によりあり方を検討し、まちづくりの理解を深めることができた。ただし、街並みルールづくりについて合意形成段階であり、個性ある街づくりルールの具現化(地区計画の策定)は、今後の課題として残っている。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き密集市街地解消、防災性向上に向け登戸区画整理事業を推進していく。 ・駅周辺へのアクセス道路等の更なる交通結節機能の強化を目指し、都市計画道路世田谷町田線、主要地方道幸多摩線、向ヶ丘遊園駅前地区連絡通路事業等整備を進める。 ・市街地環境の改善や生活拠点に相応しい商業集積・魅力向上の観点から、登戸区画整理事業区域内の地区計画の策定や藤子・F・不二雄ミュージアム関連事業、生田緑地内の施設整備等を行っていく予定である。